令和８年度第３回　羽村市立羽村第三中学校コミュニティ・スクール委員会会議録

１　日　時	令和８年９月19日（土）　午前９時30分～11時25分
２　場　所	羽村市釣り羽村第三中学校　会議室
３　出席者	会長　石黒 奈保美 委員　中村 正人、江口　美樹、青木　悟、木田 兼治） 地域コーディネーター（ＣＯ）　（敬称略）
４　欠席者	委員　渡邉　智美　（敬称略）
５　議　題	１．地域学校協働活動実施内容について ２．来年度の推進について意見交換 ３．その他・学校アンケート・事務局より
６　傍聴者	０人
７　配布資料	・【資料１】校長作成資料
８　会議の内容	（会長）これから、会議を開会します。 校長挨拶 （委員）・学校の様子について 校長作成資料より 防災関連では、救助袋を用いた訓練、台風等の休校措置に関する基準、12月の総合防災訓練について説明。 【学力向上】 校内研修の取り組みの中では、授業観察月間として、教員による10分間授業観察を９月～10月に実施。教員間で互いの授業を観察し合い、授業改善をコツコツ推進できている。また、６月には「暇な時間を作らない授業」として、生徒が「今自分が何をすべきか」を常時把握・集中できる指導を行った。 【学力向上】 その他の取り組みでは、読書活動の充実に関する取り組みということで、委員会から提案のあった蔵書紹介について、星をつけて本の特徴を紹介する取り組みを行った。生成 AI を活用した蔵書紹介について Microsoft と Google 双方の特性を検証しながら、研究している。AI が１回で扱える情報量や進化のスピードを実感しつつ、間違い探しを生徒にやってもらうことも有効かと感じている。 次期学習指導要領については、従来のゆとり教育と呼ばれた頃のやり方とは違い、例えば、理科と技術の重複内容の整理等で捻出した余白の時間を柔軟に割り振ることがポイントになっている。

	Ⅰ．地域学校協働活動実施内容について （事務局）　9 月 4 日実施。2 年生通常学級の技術科（キャリア教育・進路学習）の一環。4～5 人のグループで小型遊具（子供用の前後に揺れる遊具）を実際に組み立てる体験活動。 成果と評価： 生徒のアンケートでは 8 割以上が肯定的。「企業が工夫や理念（インクルーシブ遊具等）をもってモノづくりをしていること」に気づき、視野が広がった。工具（ドライバー、ネジ、ナット等）に慣れていない生徒も多かったが、時間内に終わらせるためにグループ内で主体的に声を掛け合い、協力して作業を進められた。 今後の展開（宿題）： お土産として配布したアルミ部品（エンドキャップ）に対し、「既存のロゴを残しつつ別の商品価値を生み出すアイディア（イノベーション）」を考える宿題を課し、企業へフィードバック予定。 委員：授業が始まってすぐは生徒がどんな反応を見せるか心配だったが、作業が始まるとみんな協力しあってコミュニケーションをとっていた。日都産業の方が 5 人も来てくれたのはありがたかった。 委員：日都産業としても中学生に対して教える機会がなかったとのことで、喜んでいた。提案を実現に結びつけていただき、感謝する。授業内で生徒の理解を深めるために、大事なポイントを書かせる工夫、授業が終わった後にも既存のものからどうやって新たな価値を生み出すか考えさせる工夫も素晴らしいと感じた。 次年度に向けては、「食育」にスポットを当て、例えば飲食店に協力してもらい、オリジナルのピザをつくる提案あり。 ② プロから学ぶ（講師 3 名） 講師： （保育園理事長） （スポーツインストラクター／海外野球経験者） （伊吹ガス／本校卒業生） 成果：生徒の聴く態度は非常に優秀で、講師陣が語る「現在の職に至るまでの失敗・決断・挫折・生き様」に深く共感し、感想文に質の高い振り返りを記載していた。 課題：講演後の質疑応答で自発的に挙手・発言する生徒が少なかった。アンケート結果から一部の感想から、生徒の興味と講師のミスマッチがあることがわかった。平日の昼間に講師を引き受けて

	くれる方がなかなかいない。 議論・改善策： 最近の中学生は「答えを間違えることへの不安」や「人前で話すことへの苦手意識」があるため、質問しやすいワーク形式の導入や、事前質問の集約などの工夫が必要。「職種の魅力」だけでなく、「中学校時代にどんな選択・学びをしたか」「人生のターニングポイントでどう判断したか」というストーリーをしっかり伝える軸（キャリア教育の本質）を設定して講師に依頼できれば、毎年講師が変わっても大事なポイントが確実に生徒に伝えられる。 ③ 面接指導（西多摩農協、西多摩衛生組合） 今後、1月に向けて地域ボランティア等の協力を得ながら継続して実施予定。 また、今年度で3回目なので、次年度については、スクラップ&ビルドの視点で継続するべきか検討する。 ２．来年度の推進について意見交換 地域企業の認知と職種の選択肢拡大： 生徒が思い浮かべる職業は身近なものに限定されがち。羽村市内には優良な工場・企業・データセンター・農協など多様な産業があるため、市内の事業所一覧やパンフレットの展示・共有を通して、早い段階で「世の中にある多様な選択肢」に触れさせたい。 コミュニティ・スクール（CS）としての企画づくり： 単発のイベントで終わらせず、学年の教員とCS側で事前にしっかり打合せを行い、「生徒にどんな生き様や学びを伝えたいか」という意図・フォーマット（依頼の共通軸）を統一して講師に打診していく。卒業生の人脈や市内の飲食店・技術系企業（商工会等との連携）を活用したゲストティチャーの継続的・段階的なプログラム化を検討。 ３．その他・学校アンケート・事務局より 歩きスマホ・生活習慣等に関する実態調査： （事務局）生徒の歩きスマホや放課後のスマートフォン利用状況についての意識喚起・安全指導の必要性を確認。羽村市は全国で見るとスマホの使用率が高い。学校アンケートの中では、初めて歩きスマホをする時に何を見ているかを聞いた。 定期考査の回数・評価の見直し： （事務局）学校ごとの教育課程に基づき、定期考査の回数や時期の見直

	し（単元テストや形成的評価の重視）について議論。単なる点数だけでなく、プロセスの評価や生徒の学習機会増加につなげる狙いを共有。 AI と今後どう付き合うのか： （委員）メリットはあるが大きなデメリットもある AI に対して、学校教育に取り入れる中でどう扱うかという問題について問題提起と意見交換をした。 連絡事項 コミュニティ・スクール連絡会 日時：令和 8 年 10 月 23 日（金）18:00～19:30　場所：市役所東庁舎 4 階大会議室 次回予定 日時：11 月 5 日（木）17:30～18:30 （会長）これをもって会議を閉会します。